

平成31年度 全国学力・学習状況調査【小学校】調査結果の概要

1 全国平均を100とした標準化得点（上段）と平均正答数（下段）

地域 調査項目 年度	阿 賀 野 市										
	19年度	20年度	21年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
国語A：知識	99	99	98	98	101	98	101	99	101	100	99
国語B：活用	100	98	97	98	99	100	98	99	99	99	
算数A：知識	99	99	98	98	101	100	99	101	100	100	97
算数B：活用	98	98	98	98	100	98	98	99	98	98	
理 科	*	*	*	100	*	*	99	*	*	99	*
国語A：知識	14.4/18	11.3/18	11.9/18	13.3/17	11.7/18	10.5/15	10.0/14	10.8/15	11.4/15	8.4/12	8.7/14
国語B：活用	6.2/10	5.6/12	4.4/10	5.5/11	4.8/10	5.6/10	5.5/9	5.6/10	5.0/9	4.3/8	
算数A：知識	15.4/9	13.5/19	13.4/18	13.3/19	15.1/19	13.2/17	11.9/16	12.7/16	11.7/15	8.8/14	8.4/14
算数B：活用	8.4/4	6.2/13	6.9/14	7.0/13	7.6/13	7.1/13	5.4/13	5.9/13	4.7/11	4.6/10	
理 科	*	*	*	14.5/24	*	*	13.9/24	*	*	9.3/16	*
調査対象	全学校	全学校	全学校	(*)全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校	全学校

22年度は：抽出校調査のため、一覧から除外 23年度：震災により中止 24年度：()市費対応で全校調査を実施。

*31年度から、「知識」「活用」一体の問題に変わる。

2 標準化得点、平均正答数、正答率

(1) 標準化得点と平均正答数

標準化得点では、国語科は全国を1ポイント、算数科は全国を3ポイント下回っている。平均正答数をみると、国語科は全国平均を0.2問、算数科は全国平均を0.9問下回っている。

阿賀野市の児童は、国語科は、ほぼ全国と同等の学力といえるが、算数科は全国より低い状況である。阿賀野市の児童は、特に算数科に弱さがあり、算数科の学力向上が大きな課題であるといえる。

(2) 「知識」と「活用」の正答率

教科別に「知識」と「活用」の正答率を全国の正答率と比較すると、国語科「知識」は1.5ポイント、「活用」は1.2ポイント下回り、算数科の「知識」は全国を6.3ポイント、「活用」は7.1ポイント下回った。これらの全国正答率との差は、平成30年度調査での差より拡大している。「知識」と「活用」との正答率では、国語科、算数科共に「活用」正答率が「知識」に比べ低い。活用力の向上は依然として課題である。

3 児童質問紙調査に見られる課題と対応

(1) 児童の学習意識と学校の授業改善

① 学習に対する関心・意欲・態度

国語科では、「勉強が好き」は全国を上回ったが、「大切だと思う」「授業内容がよく分かる」の設問は全国を下回った。算数科では、「勉強が好き」「大切だと思う」「授業の内容がよく分かる」の設問は、全国を下回った。算数科に対する苦手意識がうかがわれる。

② 授業改善の推進

各小学校は、自校の学力実態を分析し、真摯に授業改善に取り組んでいる。平均正答数の全国との差は、国語科及び算数科共に1問以内である。今後、「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善や活用を単元に位置付けることで改善すると考える。市教育委員会も、学習指導計画訪問・要請訪問をとおり、授業改善を支援していく。

(2) 家庭での過ごし方と学習習慣の改善

① 生活習慣

「朝食摂取」、「定時就寝・定時起床」など生活の基本となる習慣については、全国を上回る良好な状況にある。

② 学習習慣

平日の家庭学習時間で、「1時間以上」の児童は69.0%おり、全国を約3ポイント上回っている。最多時間帯は「1時間以上2時間未満」であり、これまでの調査と変わりはない。「自分で計画を立てて勉強している」の設問は、肯定的評価が77.7%で、全国を約6ポイント上回った。しかし、2つの設問とも、前年度調査より下がっている。また、「30分未満」の児童が増えている。個別の指導とともに、授業と繋げた内容など、家庭学習のよさを実感させるよう、内容を工夫する必要がある。

③ 読書習慣

最多読書時間帯は、「10分～30分未満」が約35%で、「全くしない」が約14%であった。読書時間が少ない傾向が続いている。一方、「読書が好き」と答えている児童が約70%もいることから、生活の中で、読書時間を生み出す工夫が必要である。そのため、特に、メディアコントロールについて、一層の保護者と連携した取組が必要である。

平成31年度 全国学力・学習状況調査【中学校】調査結果の概要

1 全国平均を100とした標準化得点（上段）と平均正答数（下段）

地域 調査項目 年度	阿 賀 野 市										
	19年度	20年度	21年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
国語A：知識	98	98	98	97	96	99	97	100	98	97	99
国語B：活用	99	98	97	96	96	99	99	99	98	97	
数学A：知識	97	97	96	96	94	96	97	99	98	96	97
数学B：活用	98	97	97	95	94	96	97	99	98	96	
理 科	*	*	*	96	*	*	97	*	*	97	*
英 語											97
国語A：知識	29.5/37	24.0/34	24.1/33	22.4/32	22.2/32	25.2/32	23.7/32	25.2/33	23.6/32	22.7/32	7.1/10
国語B：活用	6.9/10	5.6/10	7.6/11	5.0/9	5.1/9	4.3/9	5.7/9	5.8/9	6.1/9	5.0/9	
数学A：知識	23.7/36	19.6/36	18.2/33	19.8/36	18.2/36	21.3/36	20.8/36	21.7/36	21.7/36	20.8/36	8.6/16
数学B：活用	9.3/17	6.5/15	7.3/15	5.8/15	4.5/16	7.7/15	5.2/15	6.3/15	6.6/15	5.2/14	
理 科	*	*	*	11.2/26	*	*	11.5/25	*	*	16.1/27	*
英 語											10.6/21
調査対象	全学校	全学校	全学校	(*)全学校	全学校						

22年度は：抽出校調査のため、一覧から除外 23年度：震災により中止 24年度：()市費対応で全校調査を実施。

*31年度から、「知識」「活用」一体の問題に変わる。

*31年度から、英語科の調査実施。英語科は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計

2 標準化得点、平均正答数、正答率

(1) 標準化得点と平均正答数

標準化得点では、国語科は全国を1ポイント下回ったが、数学科及び英語科は共に全国より3ポイント下回った。また、平均正答数からみると、国語科は全国平均を0.2問、数学科は1.0問、英語科は1.2問それぞれ下回っている。阿賀野市の生徒は、国語科についてはほぼ全国と同等の学力であるといえるが、数学科と英語科は全国より低い状況にある。阿賀野市の生徒は、特に、数学科と英語科の学力の向上が課題である。

(2) 「知識」と「活用」の正答率

教科別で「知識」と「活用」の正答率を全国の正答率と比較すると、国語科「知識」は1.4ポイント、「活用」が1.1ポイント、数学科「知識」が7.1ポイント、「活用」が5.2ポイント、英語科「知識」が6.4ポイント、「活用」が3.8ポイント下回った。しかし、平成30年度調査と比較できる国語科と数学科について全国の正答率との差をみると、国語科、数学科共に、差は平成30年度調査より縮小し、改善傾向が見られる。「知識」と「活用」との正答率を比較すると、「活用」が低い傾向にあり、活用力の向上が課題であることは、これまでと変わりはない。

3 生徒質問紙調査に見られる課題と対応

(1) 生徒の学習意識と学校の授業改善

① 学習に対する関心・意欲・態度

国語科では、「勉強が好き」「大切だと思う」「授業内容がよく分かる」の設問で全国を上回った。数学科では、「勉強は大切」で全国と同値であったが、「勉強が好き」「授業の内容がよく分かる」の設問は全国を下回った。英語科については、「勉強が好き」「大切だと思う」「授業内容がよく分かる」の設問とも全国を下回った。

② 授業改善の推進

各中学校は、自校の学力実態を分析し、授業改善に取り組んでいる。3教科の全国との平均正答数の差は、最大1.2問であり、生徒の主体的な学習を実現する授業改善や活用を単元に位置付けることで改善すると考える。市教育委員会も、学習指導計画・要請訪問及び中学校学力向上プロジェクト訪問とおし、授業改善の支援をしていく。また、市内のある中学校は教科部会を定例化した。この動きが広がるよう一層働きかけたい。

(2) 家庭での過ごし方と学習習慣の改善

① 生活習慣

「朝食摂取」「定時就寝」「定時起床」の規則正しさは全国以上であり、良好な状態にある。

② 学習習慣

家庭学習時間は、「1時間以上」の生徒の割合は57.6%であり、全国を約12ポイント下回った。最多時間帯は、「1時間以上2時間未満」であった。家庭学習の時間は少ない状況である。また、「30分未満」の生徒の割合が、増加傾向にある各中学校では、家庭学習プランニングタイムの取組を行っているが、家庭学習のよさを実感させるよう、家庭学習の内容について工夫が必要となっている。

③ 読書習慣

読書をしている生徒の最多時間帯は「10分以上30分未満」で22.5%だった。また、「全く読まない」は、約40%を占めた。一方、「読書が好き」と答えている生徒が約69%もいる。このことから、家庭での過ごし方が改善できれば、状況も変わると考えられる。特に、スマートフォンの使用について、一層の保護者と連携した取組が必要である。